

国際共同研究事業
欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム
(Open Research Area for the Social Sciences)
平成27年度実施報告書

平成 28年 4月 13日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

所属機関・部局 早稲田大学 政治経済学術院

職・氏名 教授・船木 由喜彦

1. 事業名 国際共同研究事業欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム
2. 研究課題名 (和文) 金融市場安定化のための実験・行動経済学的分析及び制度設計の研究
(英文) Behavioral and Experimental Analyses in Macro-finance

3. 共同研究実施期間 (全採用期間)

平成 28年 1月 1日 ~ 平成 30年 12月 31日 (3年 0ヶ月)

4. 研究参加者

(1) 日本側参加者 11 名 (2) 欧州側研究者 (代表者・各国代表者) 24 名

5. 主要な物品購入状況 (一品又は一組若しくは一式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様 型・性能等	数量	単価(円)	金額(円)	設置研究機関名
なし					

備考：50万円以上の物品を購入等した場合のみ記入してください。

6. 人件費使用状況

氏名	金額	雇用期間	専門および本研究における役割
阿部貴晃	115,700 円	平成 28 年 1 月 14 日 ～3 月 31 日	プログラム開発、Web 管理
中川綾野	104,650 円	平成 28 年 1 月 15 日 ～3 月 31 日	実験補助、倫理委員会申請書作成 補助
篠田太郎	24,700 円	平成 28 年 1 月 15 日 ～3 月 31 日	実験実施補助、資料の英訳作業

備考：研究者及び専門技術員・研究補助者を雇用した場合のみ記入してください。

雇用期間の欄の記入例：「平成 27 年 2 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日」

7. 渡航実施状況

(a) 日本側参加者（代表者を含む）の国内出張

出張者 (氏名)	出発地 (都市名)	用務先 (都市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
なし					

* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」

** 本経費使用予定の有無を記入すること

(b) 当該年度に欧州側相手国を訪問した日本側参加者

出張者 (氏名)	出発地	用務先 (国名・都 市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
なし					

* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」

** 本経費使用予定の有無を記入すること

(c) 当該年度に欧州側相手国以外の国を訪問した日本側参加者*

出張者 (氏名)	出発地	用務先 (国名・都 市名)	旅行期間**	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担***
なし					

* 外国出張の渡航先は原則として、欧州側相手国のみを渡航先とします。ただし、当該共同研究の研究成果発表を目的とする学会等への出席や、フィールドワーク等で当該第三国へ行くことが必須である研究上の理由がある場合に限り、欧州側相手国以外の国を訪問することは可能です。

** 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」

*** 本経費使用予定の有無を記入すること

(d) 当該年度に受入れた欧州側相手国研究者

出張者 (国名・氏名)	用務先	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)
オランダ Charles Noussair	早稲田大学	3/12～24 12日間	別件にて講義・研究発表・指導 3/17 BEAM キックオフシンポジウム講演
フランス Nobuyuki Hanaki	早稲田大学	3/17	BEAM キックオフミーティングにて、 講演&欧州側の現況報告

* 旅行期間の欄の記入例：「6月10～19日、10日間」

8. 研究実施状況

※ 申請書の内容および当該年度実施計画書の「6. 本年度実施計画の概要」と対応させつつ、当該年度の研究の実施状況を簡潔に日本語にて記入してください。

本年度（2015年度）は、本プロジェクトが円滑に進行するための体制作りを行った。まず、大学事務当局との連携会議を開催し、定期的に連絡を取る体制を作った。さらに、事務的な補助作業を行うための秘書を雇用し、さらに、実験プログラム作成や、実験実施補助作業のためのRAを雇用した。彼らの協力により行った作業として下記があげられる。

- (1) 事務局立ち上げによる物品購入と整備
- (2) 研究の成果などを公表するためのプログラム web ページの立ち上げ
(<http://beamproject.blogspot.jp/>)
- (3) 実験に必要なマウストラッキングソフトの開発開始
- (4) 本プロジェクトで行われる実験実施に必要な倫理委員会審査の申請
- (5) プロジェクトの進捗や会議報告に関するニューズレターの作成と配布
- (6) プロジェクトメンバーの倫理教育受講確認作業

さらに、本プロジェクトに関連したマクロ金融の30名規模の実験を7セッション行った。この一部には業務委託による実験研究も含まれている。この実験により、この後のプロジェクト進行のための予備的なデータを獲得することができた。

また、欧州側代表兼フランス側代表の花木教授、オランダ側メンバーのチャールズ・ノゼア教授の訪日と合わせて、2016年3月17日にキックオフシンポジウムを行った。そこでは、日本側のほとんどのメンバーが集まり

- (1) 両教授による記念講演
- (2) メンバーと事務局の紹介
- (3) プロジェクトの進捗に関する報告
- (4) 今後のプロジェクトの運営方法
- (5) 来年度の予算執行方法

等について、報告並びに議論を行った。

本年度は準備作業が主体であったため、本プロジェクト経費による海外出張、国内出張は行わなかった。

9. 研究発表（平成 27 年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計 (6) 件 うち査読付論文 計 (5) 件

共著の有無*	著者名	論文標題			
		Iwata, M., & Akiyama, E.,	E. Heterogeneity of link weight and the evolution of cooperation.		
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
	Physica A	○	448, 15	2 0 1 6	224~234
	著者名	論文標題			
	Rene van den Brink, Youngsub Chun, Yukihiro Funaki and Boram Park	Consistency, Population Solidarity, and Egalitarian Solutions for TU-games			
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
	Theory and Decision	○	online	2 0 1 6	1~21
	著者名	論文標題			
	Yokote Koji, Yukihiro Funaki, Yoshio Kamijo	A New Basis and the Shapley Value			
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
	Mathematical Social Sciences	○	80	2 0 1 6	21~24
	著者名	論文標題			
	Takayuki Oishi, Mikio Nakayama, Toru Hokari, Yukihiro Funaki	Duality and Anti-duality in TU Games Applied to Solutions, Axioms, and Axiomatizations			
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
	Journal of Mathematical Economics	○	63	2 0 1 6	44~53
	著者名	論文標題			
	宇都伸之、上條良夫、船木由喜彦	ダブルトラック・オークションの実験研究			
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
	日本オペレーションズリサーチ学会 和文論文誌	○	59	2 0 1 6	38~59
○	著者名	論文標題			
	Nobuyuki Hanaki & Eizo Akiyama, Ryuichiro Ishikawa	A Methodological Note on Eliciting Price Forecasts in Asset Market Experiments			
	雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
	GREDEG Working Papers 2016-02, Groupe de REcherche en Droit, Economie, Gestion, University of Nice Sophia Antipolis	×		2 0 1 6	

〔学会発表〕 計 () 件 うち招待講演 計 () 件

発表者名	発表標題	
学会等名	発表年月日	発表場所

〔図書〕 計 () 件

共著の有無*	著者名	出版社	
	書名	発行年	総ページ数

*欧州各国研究代表者との共著がある場合は○、欧州各国研究代表者との共著であり論文内に事業名を明記している場合は◎と記入した上で、明記されている箇所（頁、巻頭、巻末等）を記入。

*足りない場合は適宜行を追加して下さい。